

科目名	介護実習 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	特別養護老人ホームにおいて 介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一委員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる	
	○		○			利用者を中心としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる	
	○					学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる	
	○		○			多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる	
			○			計画的に実習の課題に取り組むことができる	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する				日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	1週間の学びや職員への質問を通して施設の概要を理解する				日々の実習記録の記載・プロセスレコードの記載	
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	7	利用者とのコミュニケーションから情報収集を行う				日々の実習記録の記載	
	8	他専門職から得られる情報を収集し情報シートを仕上げる				日々の実習記録の記載	
	9	印象に残った関りをプロセスレコードに記載				日々の実習記録の記載	
	10	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う				日々の実習記録の記載・カンファレンスレポート提出	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。 A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習態度		○	○	○		50%
	記録提出		○	○	○		50%
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	介護過程総論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期／半期科目	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	①介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる。 ②他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開することができる。 ③介護計画の立案により、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護過程の意義、目的を理解する。	
	○					介護過程の展開を理解する。	
	○	△				個々に合った介護過程を展開できるようになる。	
	○					チームアプローチの重要性を認識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護過程」 中央法規「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護過程とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護過程とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	生活支援における介護過程の必要性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	生活支援における介護過程の必要性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	介護過程の展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	アセスメント(情報収集)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	介護過程の立案				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	介護の実施				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	評価				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	介護過程の実践的展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	「介護過程」展開の実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	介護過程とケアマネジメントの関係性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	チームアプローチにおける介護福祉士の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	まとめ、試験対策				定期試験に向け、復習しておくこと		
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	からだのしくみ I (後期/通年)						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度	目標		
	○				生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について学び、関連した疾患の概要を説明することができる。		
	○				代表的な疾患や症状を知ったうえで、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。		
	○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
			○		利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11 - ころとからだのしくみ ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	からだのしくみを理解するー前期振り返り、関連する役割、薬の知識			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	生活習慣病について			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	移動に関連したころとからだのしくみ①移動の意義・目的、基本姿勢			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	移動に関連したころとからだのしくみ②ころとからだのしくみ			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	移動に関連したころとからだのしくみ③心身の機能低下が移動に及ぼす影響			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	移動に関連したころとからだのしくみ④変化の気づきと対応			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	身じたくに関連したころとからだのしくみ①身じたくの意義・目的			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	身じたくに関連したころとからだのしくみ②ころとからだのしくみ			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	身じたくに関連したころとからだのしくみ③心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	身じたくに関連したころとからだのしくみ④変化の気づきと対応			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	食事に関連したころとからだのしくみ①食事の意義・目的			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	食事に関連したころとからだのしくみ②ころとからだのしくみ			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	食事に関連したころとからだのしくみ③心身の機能低下が食事に及ぼす影響			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	食事に関連したころとからだのしくみ④変化の気づきと対応			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	学習のまとめと国家試験対策			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)前期30時間(15コマ)終了時に前期定期試験を実施し、後期30時間(15コマ)終了時の後期定期試験での総合評価を通年の評価とする。 (2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)定期試験(筆記)を前後期に実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				5%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
発表・作品	○	○		◎		10%	
履修上の注意	出席が通年で20回に満たない場合は、後期定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論Ⅰ－①						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	60	担当者	豆田和也・案納賀世子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年生・ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	事例・実習を通して、個々になった介護過程の展開ができるようになる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる	
	○	○		○		生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。	
	○	○		○		介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション					
	2	実習ⅠBでの情報収集の方法				課題提出	
	3	情報収集の振り返り				課題提出	
	4	情報収集の振り返り				課題提出	
	5	ボランティア実習の準備				課題提出	
	6	ボランティア実習				課題提出	
	7	ボランティア実習				課題提出	
	8	ボランティア実習				課題提出	
	9	ボランティア実習				課題提出	
	10	情報シートのまとめ				課題提出	
	11	アセスメントの視点				課題提出	
	12	アセスメントの視点				課題提出	
	13	フェイスシートの作成				課題提出	
	14	フェイスシートの作成				課題提出	
15	フェイスシートの作成				課題提出		
評価方法	(1)フェイスシート・状況シート・個別援助計画の作成・提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○		○		70%
	授業態度				○		30%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論Ⅰ－②						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	60	担当者	豆田和也・案納賀世子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年生・ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	事例・実習を通して、個々になった介護過程の展開ができるようになる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる	
	○	○		○		生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。	
	○	○		○		介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	状況シート作成					
	17	状況シート作成				課題提出	
	18	教科書事例①				課題提出	
	19	教科書事例①				課題提出	
	20	教科書事例①				課題提出	
	21	教科書事例①				課題提出	
	22	教科書事例①				課題提出	
	23	教科書事例①				課題提出	
	24	教科書事例①				課題提出	
	25	教科書事例②				課題提出	
	26	教科書事例②				課題提出	
	27	教科書事例②				課題提出	
	28	教科書事例②				課題提出	
	29	教科書事例②				課題提出	
15	教科書事例②				課題提出		
評価方法	(1)フェイスシート・状況シート・個別援助計画の作成・提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○		○		70%
	授業態度				○		30%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護概論・介護福祉総論(後期)						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 ・ 介護福祉科						
授業概要	介護福祉の専門性と倫理を理解する。ICFの視点にもとづくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法について理解し、習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士の倫理綱領を理解する。	
	○					自立支援とは何かを理解し、ICFの考え方を理解する。	
		○				自立支援とリハビリテーションについて理解する。	
		○				自立支援と介護予防について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 3 一介護の基本 I						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護福祉士の倫理 介護実践における倫理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	介護福祉士の倫理 介護福祉士会倫理綱領			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	介護福祉士の倫理 介護福祉士会倫理綱領			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	自立支援の考え方 自立支援とは?			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	自立支援の考え方 自立支援とは?			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	ICFの考え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	介護におけるICFのとらえ方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	自立支援とリハビリテーション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	リハビリテーションとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	自立支援と介護予防			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	介護予防の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	高齢者の身体特性と介護予防			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	介護予防における介護福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習 I (後期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	通年	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年						
授業概要	授業の中で介護過程の展開方法を理解したうえで、実習事例体験を通して、個々に合った介護過程の展開ができるようになる。さらに、実習後個別のケースに対して事例研究を行い、事例検討の方法を習得する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			実技試験に4回目までに合格できる	
				○		すべてに出席できる	
	○	○				実習中及び前後の提出物が期限通りに提出できる	
				○		授業態度	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	実習先発表、自己紹介表記入					
	17	調べ学習					
	18	目標設定					
	19	日誌下書き					
	20	日誌清書					
	21	実習内容					
	22	実習の決まりごと確認					
	23	プロセスレコード、カンファレンスレポート記入方法					
	24	実習前審査リハーサル					
	25	事前挨拶／実習前審査					
	26	事前挨拶／実習前審査					
	27	お礼状／申し送り簿記入					
	28	報告会準備					
	29	実習報告会					
30	実習報告会						
評価方法	1、実技試験に4回目までに合格できる 2、実習関係書類の提出期限が守られること 3、授業に出席していること 4、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 以上4つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	○		○	○		100%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	前田浩明		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年製						
授業概要	社会福祉士・ソーシャルワーカーの役割・意義やソーシャルワークの概念、特にエフ・ハフメント、ソーシャル・イノベーション等に関して、またソーシャルワークの形成・発展史についても理解を深める。加えて、ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術を軸として、総合的かつ包括的な援助、権利擁護等を理解する。講義終盤は、貧困問題や生活保護問題等にも触れ、ソーシャルワーカーに求められる新たな社会的役割や求められる人権感覚を涵養する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					ソーシャルワーカーの倫理と価値を理解できる	
	○	△				ソーシャルワーカーの方法と技術を理解できる	
	○					日本のソーシャルワーク発展の歴史を理解できる	
	○					総合的かつ包括的な援助と多職種連携の重要性を理解できる	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	講義予定とオリエンテーション NHKドラマ10 サイレント・プア第1話視聴				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	2	ソーシャルワークの価値・倫理① ～「価値」とは何か～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	3	ソーシャルワークの価値・倫理② ～ソーシャルワークの価値・倫理綱領&福祉の現場リアル～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	4	ソーシャルワークの価値・倫理③ ～ソーシャルワークの価値・倫理綱領&福祉の現場リアル～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	5	日本におけるソーシャルワークの歴史的展開① ～仏教と救済、明治・大正期～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	6	日本におけるソーシャルワークの歴史的展開② ～戦後から現在～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	7	ソーシャルワークの方法と技術①				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	8	ソーシャルワークの方法と技術②				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	9	ソーシャルワークと権利擁護				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	10	NHKプロフェッショナル～仕事の流儀 ～地域の絆で、“無縁”を包む CSW勝部麗子				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	11	総合的かつ包括的な援助と他職種連携① ～地域を基盤としたソーシャルワーク～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	12	総合的かつ包括的な援助と他職種連携② ～地域を基盤としたソーシャルワーク～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	13	精神保健福祉士の意義と役割 ～精神障害者福祉の現状と課題～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	14	福祉の現場リアル ～ホームレス支援の現場 FW予定～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
15	福祉の現場リアル ～ホームレス支援の現場 FW予定～				テキストの該当部分を読んでおくこと		
評価方法	期末試験を実施する。 出席回数。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	宿題・レポート	○					10%
	出席状況				○		20%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	障害者福祉論(後期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下雅弘		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要(地域意向や就労の実態を含む)について理解する。 ②障害者福祉制度の発展過程について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				障害者福祉に関する法律制度等の概要を理解する。	
	○	○				福祉専門職(社会福祉士等)の役割や実際の業務等を理解する。	
				○		課題発表、グループワーク等を行い、障がいのある方の支援について理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版:障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ・ミネルヴァ書房:よくわかる障害者福祉						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	障害者自立支援制度①(障害者総合支援法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	障害者自立支援制度②(障害者総合支援法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	障害者自立支援制度③(障害者総合支援法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	障害者自立支援制度④(障害者総合支援法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	組織機関の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	組織機関の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	専門職の役割と実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	専門職の役割と実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	障害者にかかわる専門職の価値・倫理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	障害者にかかわる専門職の価値・倫理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	多職種連携・ネットワーキング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	多職種連携・ネットワーキング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	障害者支援の現状と課題についてレポート課題発表			レポート課題について調べる		
	14	障害者支援の現状と課題についてレポート課題発表			レポート課題について調べる		
15	障害者支援における事例検討とサービス利用について/定期試験対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	①授業の中で小テストを4回実施。 ②レポート課題を3回(内容と発表で評価を行う) ③授業中に実施する小テストとレポート課題(提出・発表) 定期正試験で総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	小テスト		◎				30%
	課題レポート				◎		10%
	発表				◎		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	生活支援技術・応用 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山・案納・豆田		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	利用者個人の尊厳を保持しながら利用者が主体的に生活できるよう支援する視点を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○		○	○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。	
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。	
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 8. 生活支援技術 I 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	視覚障害(平山)					
	2	視覚障害(平山)					
	3	視覚障害(平山)					
	4	聴覚・言語障害(平山)					
	5	聴覚・言語障害(平山)					
	6	聴覚・言語障害(平山)					
	7	重複障害(平山)					
	8	重複障害(平山)					
	9	膀胱・直腸機能障害(案納)					
	10	膀胱・直腸機能障害(案納)					
	11	膀胱・直腸機能障害(案納)					
	12	膀胱・直腸機能障害(案納)					
	13	高次脳機能障害(豆田)					
	14	高次脳機能障害(豆田)					
15	高次脳機能障害(豆田)						
評価方法	期末試験を実施する。 出席回数。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習		○	○	○		20%
	レポート	○	○		○		30%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	生活支援技術・基本 I (後期)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	豆田・案納・吉水・平山		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技: ○ ※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○	○	○	○		各単元の生活支援技術を安全安楽に行うことができる。	
		○	○	○		実施した生活支援技術の根拠を伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	31	入浴・清潔保持(吉水)					
	32	入浴・清潔保持(吉水)					
	33	入浴・清潔保持(吉水)					
	34	入浴・清潔保持(吉水)					
	35	入浴・清潔保持(吉水)					
	36	入浴・清潔保持(吉水)					
	37	入浴・清潔保持(吉水)					
	38	入浴・清潔保持(吉水)					
	39	入浴・清潔保持(吉水)					
	40	入浴・清潔保持(吉水)					
	41	口腔ケア(平山)					
	42	口腔ケア(平山)					
	43	口腔ケア(平山)					
	44	口腔ケア(平山)					
45	演習・口腔ケア(平山)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習		○	○	○		20%
	レポート	○	○		○		30%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	認知症の理解						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年生・ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		認知症の定義・全体像について理解し説明できる	
	○	○		○		認知症の症状・原因疾患について理解し鑑別することができる	
	○	○		○		認知症の人の現状と課題について知り、考えを述べることができる	
	○	○		○		認知症ケアの実際について具体的な方法と留意点について言うことができる	
○	○		○		認知症の人の地域生活支援の具体的な方法について述べるができる		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 前期内容の振り返り			小テスト(前期の内容)を実施するので勉強しておくこと		
	2	認知症を取り巻く状況			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	3	認知症ケアの理念と視点・認知症当事者の視点から考える			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	4	認知症ケアの実際① パーソンセンタードケア			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	5	認知症ケアの実際② アセスメントの方法の実際			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	6	認知症の人への様々なアプローチ①			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	7	認知症の人への様々なアプローチ②			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	8	認知症の人の終末期医療と介護			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	9	認知症の人の生活環境			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	10	介護者支援 家族の支援			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	11	認知症の人の地域生活支援 新オレンジプラン			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	12	認知症の人の地域生活支援 RUN伴事前オリエンテーション			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	13	認知症の人の地域生活支援 RUN伴参加			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	14	認知症の人の地域生活支援 RUN伴参加			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
15	認知症ケアの実際のまとめ			後期まとめテストを実施するので勉強しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	出席率				◎		5%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	保健医療サービス						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	15	担当者	柏木秀行		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	医療保険制度や保健医療サービスについて理解し、その内容を把握した上で、相談援助活動に役立つ知識を身につける						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療保険のしくみを理解する	
	○	○		○		医療機関について理解する	
	○	○		○		医療専門職について理解する	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 保険医療サービス						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				授業の進め方、学ぶことを共有する	
	2	医療保険のしくみ				医療保険の概略を理解する	
	3	医療保険のしくみ				医療保険の概略を理解する	
	4	国民皆保険制度				国民皆保険制度を理解する	
	5	保険者				医療保険における保険者について理解する	
	6	医療保険の給付				医療保険の給付内容を理解する	
	7	高額療養費制度				高額療養費制度を理解する	
	8	国民医療費				国民医療費について理解する	
	9	国民医療費				国民医療費について理解する	
	10	医療機関の種類				医療機関について理解する	
	11	医療機関の種類				医療機関について理解する	
	12	医療専門職の理解				医療専門職について理解する	
	13	医療専門職の理解				医療専門職について理解する	
	14	医療専門職の理解				医療専門職について理解する	
15	まとめと復習				授業を通じて生じた疑問について質疑応答を行う		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名		保健体育・レクリエーション(後期)					
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	波多江磨里子		
実施年度	2019年	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	人間が「人間らしく、自分らしく、生きていきたい」と願い、追及をしていくその”援助者”としての役割を持つ介護福祉士。被援助者の「願い」の実現のための保健や体育、レクリエーションの知識を学び、利用者に適切に提供することができるよう評価―計画―実施―再評価の方法や活動分析について知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					保健やレクリエーションが特定の入や時間に限定されるのではなく、人権、権利であることを知る。	
		○				利用者によって異なる心や体の課題を理解し、利用者個々人に利用者分析を行うことができる。	
				○		利用者へのアセスメント(評価)をもとに利用者の課題解決に向けた援助行動ができる。	
				○		利用者の方々に対し「集団も個のあつまり」であることを理解し、生活の快を追求するための集団援助ができる。	
	○					身の回りにおける保健体育・レクリエーションのための社会資源を10以上挙げるができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	レクリエーション支援の方法Ⅰ-1 信頼関係づくりの方法			テキスト該当範囲を読んでおく		
	2	レクリエーション支援の方法Ⅰ-2 ホスピタリティ			テキスト該当範囲を読んでおく		
	3	レクリエーション支援の方法Ⅱ-1 アイスブレイキング			テキスト該当範囲を読んでおく		
	4	レクリエーション支援の方法Ⅱ-2 良好な集団づくりの方法			テキスト該当範囲を読んでおく		
	5	レクリエーション支援の方法Ⅲ-1 自主的・主体的に楽しむ力を高める			テキスト該当範囲を読んでおく		
	6	レクリエーション支援の方法Ⅲ-2 楽しむ力を高める目標設定の方法			テキスト該当範囲を読んでおく		
	7	レクリエーション支援の方法Ⅲ-3 レク活動を対象に合わせるアレンジ			テキスト該当範囲を読んでおく 活動分析について考察する		
	8	レクリエーション支援の方法Ⅲ-4 相互作用を促進するコミュニケーション技術			テキスト該当範囲を読んでおく 良好なコミュニケーションに必要な言葉の言い換えを 今まで学んだレクリエーション援助技術過程を復習しておく		
	9	レクリエーション活動の習得 個人援助					
	10	レクリエーション活動の習得 集団を介しての援助			アイスブレイキングのプログラミングの復習をしておく		
	11	レクリエーション活動の習得 支援のための歌			高齢者、子どもと一緒に歌うことのできる歌を探しておく		
	12	レクリエーション活動の習得 音楽に合わせた身体活動			歌に合わせた動きを4つ考えておく		
	13	レクリエーション活動の習得 機能回復などを目的とする集団活動			学んだことを自分なりにまとめておく		
	14	レクリエーション活動の習得 卓上療法・脳トレ活動			学んだことを自分なりにまとめておく (時間、言葉かけ、立ち位置にも留意する)		
	15	レクリエーション支援の実施			60分のレクリエーションプログラムを準備しておく 客観的に振り返りを作成する		
	16	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
	17	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
	18	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
	19	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
	20	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
評価方法	期末試験を実施する。 出席回数。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				
	小テスト	◎	◎				
	宿題・レポート	○	○		◎		
	発表・作品			○	◎		
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						